

市長と語ろう！タウンミーティング 報告書

～ 地域づくり・活性化に取り組むグループと語る北秋田市について ～

令和3年12月12日（日）13：30～15：30

北秋田市民ふれあいプラザ 1階 多目的ホール

【出席者】

北秋田市長

津谷 永光 （つや えいこう）

荒瀬かだまり

事務局長 柏木 静男 （かしわぎ しずお）

おさるべ元気くらぶ

代表 長岐 直介 （ながき なおすけ）

新舟見町自治会

会長 伊藤 武 （いとう たけし）

羽根山創生グループ

代表 松岡 正徳 （まつおか まさのり）

ファシリテーター（秋田大学北秋田分校長）

三浦 栄一（みうら えいいち）

司会（北秋田市総合政策課長）

長岐 孝生（ながき こうき）

（敬称略）

他、参加者 36 名

次 第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. ファシリテーター紹介
4. 参加者自己紹介
5. トークディスカッション

【トークテーマ】

- ①地域づくり、地域活性化のための取組の経緯と内容
 - ②実際に取り組んでみての感想（良かった点、課題点）
 - ③他の団体が取組を行う際のヒントやコツ
 - ④今後の方向性・将来像
6. 市長感想発表
 7. ファシリテーターまとめ
 8. 閉 会

1. 開会

長岐課長

それでは、これより「令和3年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を開会いたします。本日司会進行を務めます総合政策課長の長岐と申します。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに津谷市長から皆様にご挨拶があります。

2. 市長あいさつ

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中、「市長と語ろう！タウンミーティング」にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、北秋田市政全般に対しまして日頃より非常にあたたかいご支援とご協力をいただきまして感謝申し上げます。

今回のタウンミーティングは、「地域づくり・活性化に取り組むグループと語る北秋田市について」と題しまして、地域の実情をよく知っている各団体の方々とトークセッションとなります。

このテーマでのタウンミーティングは、本来今年1月に開催予定でありましたが、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となっていたものです。

感染力が強いとされるオミクロン株の世界的な広がりが心配されるころではありますが、国内を見ますと現時点では落ち着いている状態が続いており、秋田県でも10月になって警戒レベル2に引き下がったことから開催することといたしました。

開催にあたりご協力いただきました各団体の代表者の方々、ファシリテーターをお引き受けいただきました秋田大学北秋田分校長の三浦先生に対しまして心より感謝申し上げます。

日本国内の各地域では、少子化・高齢化により人口減少が深刻な問題となっており、当市も例外ではありません。そのような状況下においても、市内には特色ある地域づくり・地域活性化に意欲的に取り組むグループがございます。その代表者の方々とトークセッションにより、これからの地域づくりのヒントなどを伺えるのではないかと大きく期待をしております。

本日も参加いただきました方々には、それぞれの取り組みを通して普段から考えていることや感じていることについて、率直にお話をしていただければと思っております。

また、ご来場いただきました市民の皆さんにもお話を聞いていただき、共に語り合う機会にしたいと考えております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

3. ファシリテーター紹介

長岐課長

それでは、本日のファシリテーターである三浦栄一さんをご紹介します。

三浦さんは、昭和 57 年より県内の小学校において教鞭をとられ、令和 2 年 3 月に退職されるまで合川西小学校校長や統合校である合川小学校初代校長などを歴任されております。

また、非常に多くの趣味・特技をお持ちでありまして、昭和 58 年に結成したポップスデュオ「ダックスマーン」では県内を中心に数々のイベントでライブを行うなど歌を通じた地域おこし・地域づくり活動に励んでおられます。そのほか合川小学校や清鷹小学校の校歌の作詞も手掛けられております。

現在は、秋田大学北秋田分校長の傍らラジオ番組のパーソナリティを務められるなどお忙しい毎日をお過ごしされております。

それでは、ここからの進行は三浦さんにお渡ししたいと思います。三浦さん、よろしく願いいたします。

ファシリテーター（三浦さん）

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました三浦です。

本日はこの地域で未来を切り開く気概と行動力を持った 4 団体の皆さんと、北秋田市を力強く牽引して下さっている津谷市長の熱い思いをお伺いしながら、市民一人一人が地域づくりへの参加意欲ときっかけづくりに繋がればよいと思っています。本日はよろしく願いいたします。

4. 団体代表者自己紹介

ファシリテーター（三浦さん）

それではトークディスカッションに入る前に、本日参加していただいている各団体の代表者の皆さんに一人ずつ自己紹介をしていただきたいと思います。これまでの取組の紹介を交えて自己紹介をお願いいたします。

荒瀬かだまり（柏木さん）

「荒瀬かだまり」で事務局長を行っている柏木です。

私は阿仁の荒瀬出身ですが、社会人人生のほとんどは県外で暮らしていました。定年になる前の 5 年間は秋田市で暮らすことになって、そのときに故郷である荒瀬に来ることができる環境になりました。そこで、幼なじみや同級生などと「露熊プロジェクト」を出来ればということが始まりでした。

「荒瀬かだまり」の名前はこの活動を行うにあたって市からの補助金申請の際に団体名が必要であったことから昔、荒瀬集落が団結して行っていたことへの表現である「かだまり（団結心）」を使って「荒瀬かだまり」として活動を始めて 2 年が経過したところです。本日はよろしく願いいたします。

おさるべ元気くらぶ（長岐さん）

「おさるべ元気くらぶ」代表の長岐です。

まずは、「おさるべ」について説明したいと思います。おさるべとは、旧鷹巣町の南側に「竜ヶ森」という 1,049m の山があります。その山腹から発した川が「小猿部（おさるべ）川」と言います。その小猿部川と米代川が合流するまでの地域が「おさるべ地域」と呼ばれています。そういうことで、おさるべ地域を中心に活動を行っています。

私は、長い間市役所の教育委員会に勤務していましたが、その経験が活動に役立っていると思っています。本日はよろしく願いいたします。

新舟見町自治会（伊藤さん）

新舟見町は、鷹巣地区の南側、いとく南店周辺の地域になります。昔は舟見町に属していましたが昭和52年に分かれたときに新舟見町となったのだと思います。新舟見町の成人人口は235人、高齢化率が54%で新しい集落のわりに高齢化率が高くなっています。今日は、自主防災組織と雪まつりについてお話ししたいと思います。よろしく願いいたします。

羽根山創生グループ（松岡さん）

松岡です。よろしく願いします。

羽根山とは、旧合川町の西地区の山裾にある小さな集落です。私は羽根山に住んで73年になりますが、その間に5、6回洪水によって陸の孤島になったことがあります。そのような集落において、このグループが結成されたのが5年前になります。きっかけは、集落の総会時の飲み会のときに過疎化が進んでこの先どうなるのかという話が出て、何か出来ないかということでスタートしたものです。

現在行っていることは、集まる度にわざわざ公民館の鍵を借りるのも大変なので、まずは集まる場所を作ろうということで始まりましたが、お金が無かったので貰い物で手作りで燻製窯などを作りました。

集落の状況ですが、5年前は64世帯、人口200人（うち小中高生15人）でした。現在は、世帯数が67世帯で人口184人（うち65歳以上が81人、小中高生21人）、高齢化率44%、2人暮らし世帯が10世帯、1人暮らし世帯が11世帯になります。その他、空家が18件、空家率21%（うち3件は倒壊危険家屋）というのが羽根山集落の現状になります。本日はよろしく願いいたします。

5. トークディスカッション

ファシリテーター（三浦さん）

それではここから、トークディスカッションに入りたいと思います。

本日は4つのテーマを設けています。一つ目は「地域づくり、地域活性化のための取組の経緯と内容」、二つ目は「実際に取り組んでみて良かった点や課題について」、三つ目は「他の団体が取組を行う際のヒントやコツ」、四つ目が「今後の方向性や将来像」になります。

時間が限られていますが、テーマに沿って皆さんと話を深めていきたいと思っています。

進め方は、テーマごとに、皆さんから順番に発表してもらいます。その後、市長から参加者の発表に対して発言をお願いします。

1つのテーマで、約20分を目処にしたいと思います。

最後に参加者から市長への要望や、市長から参加者へのお願い、さらには傍聴席の皆さんからも感想や意見等を伺えればと思っています。

はじめに「地域づくり、地域活性化のための取組の経緯と内容」になります。団体の皆さんから一人ずつこのテーマに関しての発表をお願いします

荒瀬かだまり（柏木さん）

当初は地域おこしとか地域活性化という目的はありませんでした。そんなときに移住者の方から「露熊山峡っていいね」という話がありました。それから50年ぶりに幼なじみと露熊山峡に行ってみたら荒れ果てていました。そこで、またみんなで行ける場所にしようということで先輩や集落の人達に声を掛けて始まったのが「露熊プロジェクト」です。その後も取組を続けたかったので記録を付けて発信をしました。発信したものに興味を持っていただいた方が参加したり、荒瀬集落に移住した方や地域おこし協力隊が参加したりと徐々に広がっていきました。やっているうちに取材をされたり、いろいろな人が集まってきたりして楽しくなってきました。そのうちに人口200人ほどの小さな荒瀬集落の中でみんなで楽しむ

るものがあればという感情が湧いてきて現在まで続いています。

荒瀬かだまりでは、19歳から81歳までの方々が活動しています。会員の方々にはいろいろな方々がいるのでそういった方々と活動を通して成果が出てくると楽しさが増します。楽しさを積み増しすると限界集落でも活動が生まれて継続していくと思っています。

おさるべ元気くらぶ（長岐さん）

活動のきっかけは、七日市の竜泉寺の住職が最近「おさるべ地区に元気がないので何とかしよう」ということで、平成24年3月に有志7名が集まって取組が始まりました。

最初は、おさるべ地区の特産物を作ろう、公民館活動を活発にしよう、宗家である長岐家を活かした取組、伝統行事を復活させようなどいろいろな話が出ました。まずは出来ることから始めようということではあったが、長岐家をきれいにすることと、15年間休止していた伝統行事の「葛黒の火まつりかまくら」を復活させようということになりました。また、公民館活動として七日市の長岐家やおさるべ地区の歴史を学ぶ講座を行うことになりました。

現在では15～30名ほどの人達で活動を続けることが出来ています。

新舟見町自治会（伊藤さん）

「自主防災組織」と「雪まつり」についてお話いたします。

自主防災会の主な活動は避難訓練になります。平成24年に設立してから活動を始めました。自主防災会は自治会の下部組織ですが予算は持っていません。自主防災会は9つの班に分かれていて各班にはリーダーと班長がいます。毎年、5月と9月に避難訓練を行っています。消防署からの協力を得て水や消火器を使っただけの訓練を行っています。訓練時には自治会の全戸に配布している「非常持出袋」や「避難マップ」を活用しながら保健センター駐車場に集合しています。班長は避難した家屋を玄関先に掲げられている「避難フラッグ」を確認したり、拡声器を使って呼び掛けしながら誘導したりしています。

また、市からは非常食をいただくなどの協力をいただいています。

次に「雪まつり」ですが、「雪灯りであそぼう」をテーマに平成26年から毎年、建国記念日の2月11日に旧北星ボーリング駐車場を会場に開催しています。主催は自治会で開催日の3日前から重機を使うなどして「雪の水神様」を作っています。かがり火台や薪、鳥居、賽銭箱などはすべて自治会の個人からの寄附で行っています。使用するロウソクは合川木戸石の樹温寺からいただいています。当日は甘酒や缶ビール、こども達用のお菓子、バーベキューなどでもてなしています。雪不足やコロナの影響で2年ほど休止になっていますが今年度は開催できるとしています。

羽根山創生グループ（松岡さん）

活動は5年前からになりますが、まずは楽しもうということで始まりました。

イニシャルコストを掛けないという前提で集まる場所を作るためにピザ窯や燻製窯、五右衛門風呂、バーベキュー窯、バーベキュー窯の周りに10人座れる腰かけを作りました。その中で家族やグループ、企業などで使いたいという希望があれば食材の持ち込みを条件に場所を提供しています。活動のメンバーは、30～80歳代の10人のメンバーで始まりました。

地域内の活動としては、さなぶり運動会を行った後などにこの場所を使ってバーベキューを行ったりしています。他の地域では伝統行事や文化遺産がありますが羽根山にはそのようなものがないのでこのような活動をして地域を明るくしています。

また、新しい挑戦としてコロナ禍でしたがこども達やお年寄りに楽しんでもらうために「100円食堂」を今年開催しました。これは、食の提供と災害時の炊き出しを想定して計画しました。当日は200食を用意していましたが完売しました。火は薪や炭を使用して水は湧き水を利用しました。

また、せっかくピザ窯があるので自分達で作って食べるというピザ作り体験を行いました。

ファシリテーター（三浦さん）

みなさんからの発言がありましたが、それらを踏まえて市長から発言をお願いします。

市長

4つの団体それぞれで幅広い年代の方々に参加されています。後継者の問題は考えていかなければならないと思いますが、幅広い年代の参加があるということが強みだと思います。それぞれ地域の特色を活かしているのも、同じ北秋田市内でも行ったことがない人にとっては新たな発見があるので、それぞれ素晴らしい活動が行われていると思いました。

私達の若い頃は、商工会青年部などで同年代の人達との交流はありましたが、現在は人口減少や高齢化が進んでいるということもあって、先輩が頑張って若い人達を引っ張って活動していることは今後の取組の参考になると思いました。

ファシリテーター（三浦さん）

市長からのお話があった通りいろいろな人を巻き込んで取り組まれているということで3つのことを感じました。①荒瀬やおさるべでは、地域にある宝物を見つけて磨いている。②新舟見町や羽根山では資源がないので自ら作り上げている。③最初から大人数ではなくて仲間や賛同者など少ない人数からスタートしている。

それでは、次のテーマ「実際に取り組んでみて良かった点や課題」について伺いたいと思います。

おさるべ元気くらぶ（長岐さん）

まずは周囲の人達から協力を得られたということが良かったことです。

長岐邸の庭園へ水を引っ張る際には水利組合にお世話になりました。障子の張替えでは鷹巣中学校の生徒に参加してもらったり、樹木へのプレート貼りには当時の鷹巣南小学校の生徒に参加してもらいました。学校や地域の団体、さらには公民館活動で助言をいただいたほか、自治会でも行事がある度に招待していただきました。そのような協力を得られたことで長岐邸を中心とした活動を進めることが出来ました。学習会では地域の方々から資料を提供していただきました。活動資金がない中で皆さんから協力が得られたのは非常に助かりました。

また、「葛黒の火まつりかまくら」では何度も葛黒集落に説明しに行きました。そのときに集落からは世帯数が減少していることや材料の稲わらが準備出来ないなどの理由によって開催出来ない状況になっていると言われました。長老の方々からは復活して2、3年で出来なくなったということはダメだよとも言われました。そういうこともあって意地でもやらなければということで行ってきました。しかし、今思うと皆さんとても協力的でありがたかったです。活動を行うにあたって自治会の会長と火まつりかまくらを指導していた人と私の3人が同年だったこともスムーズに進んだ要因だと思っています。

課題は、意気込みはあるのですが活動資金がないことが大変です。市から助成をいただいたりクラウドファンディングを行ったりして活動費を捻出しました。活動費についてはこれから同じように活動したいグループが出てきた場合の支援について市でも考えてもらえればと思います。

新舟見町自治会（伊藤さん）

会員の元気な顔を見られる機会が総会以外になかったのが機会が増えたのが良かった点です。

また、雪まつりでは除雪作業で疲れている中、冬期間に自治会行事もなく顔を合わせる機会が少ない中で気分転換できる事業が開催出来ることは安心につながります。

子供会との連携では祭りの子ども神輿や夏休みのラジオ体操以外で子どもたちと接する機会がないため、この機会に名前が覚えられて嬉しいということがありますが、子供会が現在13名と少ないのが気が

かりです。

課題は、高齢会員の参加者が少ないことです。会員の高齢化から自治会役員の不足が懸念されています。特に60歳代の会員が少ないことと定年が延長になったことで人材が少ないことが課題です。

また、新舟見町自治会は医療機関や小学校が近いこともあって新しい居住者が増えていますが、その人達がすぐには参加してくれないことが課題です。

羽根山創生グループ（松岡さん）

良かったのは、外で遊ぶことが少なくなった子どもたちの遊ぶ姿が整備した場所付近で見られるようになったことです。それと年配の方がテーブルを囲んでお茶をしている光景が見られるようになったことです。一昨年は大型バスで来られた団体が場所を使わせてほしいということもありました。地域活性化の一步を踏み出したという点では良い方向に進んでいると思っています。

課題は、利用者でピザを作れないので生地を作ってほしいという依頼がありますが、生地作りをしている人が普段は仕事をしているので日曜日しか対応出来ません。

また、自治会としては後継者の育成という問題があります。

荒瀬かだまり（柏木さん）

個人的には同世代が半世紀ぶりに懐かしい場所に行けたのが良かった点です。活動が進むにつれてわずかですが荒瀬集落に活気が出てきたことです。

また、移住者の方々や若い人と高齢者が交流を行えるようになったことが良かったと思っています。

それと地元の子どもたちに山峡を見てもらいたいという活動の目標がありましたが、阿仁中学校の生徒に山峡に来てもらったことと大人たちが頑張って整備したものを見せられたことが良かったです。10年ほど前にも同じような活動をしていた先輩方がいて、その方々の活動があったからこそ今に繋がっていると感じています。

課題は、このグループで最終的なゴールを定めているわけではありませんが、現在行っている活動が継続できる仕組みを作り上げることが私たち世代のゴールと考えています。その仕組みがまだ出来ていません。

また、整備を行ってきましたがまだ気軽に行ける観光地にはなっていません。いろいろと試行錯誤をしながらゴールを探しているところです。

ファシリテーター（三浦さん）

皆さんからの発言を踏まえて市長からお願いします。

市長

それぞれの団体が楽しみながら、また、周りも巻き込みながら活動されています。後継者という点では、これまで先輩方が残してくれたものを掘り起こすとか、どの団体も子どもたちを巻き込んでいますが、北秋田市には「きらり☆きたあきた」という郷土を学ぶ資料があります。これが北秋田市の歴史や地理を知るうえで大変すばらしいものなのでふるさと教育に活用するとか、一つ一つの積み重ねが必要になってくると思います。合併して北秋田市になりましたが、私も露熊山峡には行ったことがなくて一度行ってみたいと思っています。そういうところに行ったことがない人が行って良さを伝えることでアピールになると思います。市でもアンテナを高くして北秋田市の良いところをアピールしていくことが必要だと感じました。

ファシリテーター（三浦さん）

それぞれのお話を聞いて感じたのが、活動に参加したり活動が広がったりすることで地域の皆さんが誇りを持たれていると思いました。その誇りを作り出していることがすばらしいと思います。

後継者という点では、子どもたちはすばらしい後継者になり得ると感じました。私が教育現場にいたときに感じていたことですが、活動をするときに子どもたちをお客さんとして扱うのではなくて主体的に関わらせることで自分たちのものになると思っています。子どもたちを主役にすることですばらしい後継者に繋がると思います。

先程、活動費についてお話がありました。市長から何かありますでしょうか。

市長

市では市民提案型まちづくり事業があります。行政ですべてにおいて手厚く支援を行えばよいのですが、先程クラウドファンディングの話もありましたが、まずは自身で方法を考えるという下地を作っていかなければならないと思っています。団体にいろいろ行ってみて足りない部分の支援について団体と行政とが相談し合える形が良いと思っています。国でもいろいろな補助金があるのでそれらを活用するという事も出来ると思います。

ファシリテーター（三浦さん）

それでは、次のテーマ「他の団体が取組を行う際のヒントやコツ」について伺いたいと思います。

新舟見町自治会（伊藤さん）

自治会の下部組織に「壮年部」があります。平成20年に設立したのですが、壮年部を作る前から子どもたちは多いところでした。そのときは私達も若かったので先々のことは考えていませんでした。ところが定年を迎えて家にいることが多くなったら物足りないと感じるようになりました。そのようなこともあって壮年部を設立しました。運営費は自治会からと会員の会費で賄っています。設立当初は14人ほどでしたが、現在は24名に倍増しています。年齢層は若い人で40歳代、年長者で80歳代となっています。

壮年部の中で「安全お任せ隊」というボランティアを募って宅地内外の立ち木・樹木の伐採や雪捨て、草取りなど自治会の行事にはすべからく協力しています。しかし、会員の高齢化が顕著になっている状況です。

自治会ということで話をすると、他の地域からの移住者が多い自治会です。そのため、自治会内での共助意識が強まったと思っています。

羽根山創生グループ（松岡さん）

楽しくやれることが大前提です。

また、いろいろな人を巻き込みながら活動するということが発展していくポイントだと思っています。

荒瀬かだまり（柏木さん）

私達も作業が終わった後にはお弁当を食べたり一杯やったりしていますが、秋田だけではなくどこでもそのようなことが必要だと思っています。

また、いろいろな人に参加してもらえるような工夫が必要だと思っています。小さな集落でも多様な人がいればいろいろなことが出来ます。

あとは団体には調整役が必要だと思っていて調整役が機能しないとうまく進まないのので事務局的な役割にある程度の重点を置かなければならないと感じています。

おさるべ元気くらぶ（長岐さん）

活動についてみんなに知ってもらうためにPRすることだと思います。例えば、長岐邸をPRするためにゴールデンウィークとお盆の年2回一般公開をしています。

また、地域の行事に私たち自身が参加して、その場でおさるべ元気くらぶが出来ることをPRすることです。自分たちの活動を知ってもらう機会を作ることが必要だと思っています。

元気くらぶの活動を始めてから、小学校での読み聞かせを行う機会が増えました。また、東京おさるべ会との交流やおさるべ自然の会、おさるべ産直、ふるさと企画などの新たなグループが出来たりして良い影響が出ています。さらにはおさるべ地区を超えて坊沢地区にも元気くらぶが出来たと聞いています。自分たちの活動をPRすることで他にも良い影響を与えるということがヒントになると思っています。

ファシリテーター（三浦さん）

皆さんからの発言を踏まえて市長からお願いします。

市長

根本は参加されている方が楽しくなければいけないということだと思いました。お酒を飲むというお話がありましたが、熱い思いを持ってやることをやってからその疲れを癒すために慰労するためのお酒が長続きするコツではないかと感じました。それを実践されている方々なので感心しています。

また、自分たちの取組がいろいろなところへ波及しているというお話がありましたが、これからも皆さんの取組が波及効果を及ぼすことを期待して、行政としてもそのための支援が出来ればと思いました。

ファシリテーター（三浦さん）

最後のテーマとして、「今後の方向性や将来像」についてお願いします。

羽根山創生グループ（松岡さん）

ひとつに「コミュニティービジネス」です。過疎化が進んで人口が減っていくと自治会の財政も逼迫していきます。そのような状況で何が出来るのかを考えたときに解決出来ないにしても少しでも負担を減らすために、米とかそばなどの農産物の活用と山菜やアユの商品化などを行えればと思っています。それと産直を含めた「コミュニティーレストラン」をやりたいです。

また、共生のための仕組みづくりとして、「子育て・介護支援」などの社会活動、「高齢者世帯の支援」として買い物や間口の除雪などを行いたいです。

また、「観光とイベント」ということでキャンプやキノコ採りなど四季折々のイベントを行えればと考えてます。羽根山自治会だけでなく周囲も巻き込んだイベントも考えていきたいと思っています。

また、「利用率の低い施設等の有効活用」ということで、例えば運動公園がありますが公民館と離れた場所にあることから利用することがなく管理しているだけになっています。そのような場所をキャンプ場として有効活用出来ないかと思っています。北秋田市内には多くの一級河川があって春にはサクラマス、夏にはアユの釣り客が集まってきます。その時期には周辺の宿泊施設や北欧の杜のキャンプ場がいっぱいになってしまっていて車中泊をしている状況です。そのようなことを解消する意味も含まれています。

荒瀬かだまり（柏木さん）

発信力のある方と一緒に活動をしていきたいと思っています。活動が継続するかは楽しくやり続けられるかだと思っているのでそのことに注力して活動したいと思っています。

露熊山峡は昭和27年の魁新聞が秋田三十景という企画で投票を行ったら195万票集まったのですが、そのときに露熊山峡が得票数で11番目になって三十景の看板を掲げることになりました。

私は幼い時に露熊に登って自分の住んでいる場所を眺めることでふるさとへの愛郷心を持ちました。それを今の子どもたちに体験してもらうことで愛郷心に繋がればいいと思っているので来年体験させてあげたいと思っています。北秋田市内全域でそのようなことが出来るようになればと思っています。

おさるべ元気くらぶ（長岐さん）

今後も無理のない範囲で活動していきたいと思っています。長岐邸を中心に考えると地元の人を中心に考えていきたいと思っています。これまでは地元の人が疎かになったイベントを行っていたのではないかなという反省点もあるので例えば、昔の結婚式を再現するとか、昔の結婚式と殿様御膳をコラボしたような

イベントなどを検討していきたいです。

また、地元の人を巻き込んだ野菜や比内地鶏づくり、きりたんぼづくりを長岐邸で行えないかという話が会員が集まったときに話題になります。

最後に、葛黒の火まつりかまくらですが今年度は従来の形で2月20日に開催したいと思っていますのでよろしくお願いします。

新舟見町自治会（伊藤さん）

若い世代が少なくて一人、二人世帯が多いということから将来像については悩ましいところですが、現在取り組んでいる壮年部の活動を見てもらって若い人達に続けてもらいたいと思います。

また、どの自治会でも同じ悩みがあると思いますが仕事との両立の関係で後継者の育成が難しい現状です。そのような現状ですが、壮年部の中に40代が5人ほどいるのでその人達を担ぎ上げて自治会と壮年部をイコールにしたいという夢があります。そういった意味で私ももうひと頑張りしたいと思っています。

ファシリテーター（三浦さん）

皆さんからの発言を踏まえて市長からお願いします。

市長

4つの団体から今後の具体的な展望などをお聞きすることが出来てとても心強く感じました。この展望が夢であったとしても、これまでも皆さんが取り組んでこられたことですので、今後も継続して夢を実現していただければと思います。

また、実現させるためには発信力というお話がありましたが、今はいろいろな媒体を活用しての情報発信が可能ですのでこのタウンミーティングのような場を利用して皆さんに知っていただくとともに、市としてもいろいろな場面でPRをしていければと思っています。

ファシリテーター（三浦さん）

以上で本日のテーマについて終了したいと思います。せっかくですので傍聴席から何かないでしょうか。

聴衆

本日の皆様のお話を聞いて日々のご苦労が身に染みてわかりました。このような社会になって大変な役目を果たされていると思っています。そこで皆さんにお聞きしたいのですが、最近では自治会においても個人情報の観点から個人への伝達等が非常に難しくなっていると思っています。皆さんの団体でそのようなことをご苦労されたことがありましたら教えていただければと思います。

新舟見町自治会（伊藤さん）

私の自治会では、自治会内の名簿しか持っていません。民生委員などが持っている情報も見ることが出来ないのでも民生委員と協議をして、自治会として知りたい内容を民生委員にその都度確認しています。知り得た情報は自治会代表者以外にはわからないようにしています。

ファシリテーター（三浦さん）

他にございませんか。

新舟見町自治会（伊藤さん）

荒瀬かだまりのお話を聞いて、手弁当で活動を行っていることがあるということから行政で支援することを市長にお願いしたいと思います。

市長

露熊プロジェクトについては、市民提案型まちづくり事業の助成金を活用していただいています。また、市だけではなく国やそれ以外のものがありますので行政としてもいろいろと相談させていただきた

いと思います。

ファシリテーター（三浦さん）

最後に市長から総括をお願いします。

6. 市長感想発表

市長

本日は本当にありがとうございました。参加していただいた皆さんの熱い思いを感じました。また、皆さんの熱い思いがあるからこそ周りの人が一緒に動いてくれているのだと感じました。これからも今の熱量を維持していただいて元気に頑張ってくださいと思います。

北秋田市のために地域のために頑張ってくださいありがとうございますことに心より感謝申し上げます。

7. ファシリテーターまとめ

ファシリテーター（三浦さん）

市長からもお話があったとおり、皆さんの熱量を感じました。そしてたくさんの宝物が詰まった取組であったと思います。私も本日のお話を聞きながら大事な顔の見える付き合いが必要だと感じました。

また、楽しみながら出来ることを出来るときに行うことが地域づくりや活性化の醍醐味だと思いました。

本日はありがとうございました。

8. 閉会

長岐課長

これをもちまして「令和3年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。お気をつけてお帰り下さい。

市長と語ろう！タウンミーティング（写真集）





津谷 永光 北秋田市長



ファシリテーター
三浦 栄一さん



荒瀬かだまり
事務局長 柏木 静男さん



おさるべ元気くらぶ
代表 長岐 直介さん



新舟見町自治会
会長 伊藤 武さん



羽根山創生グループ
代表 松岡 正徳さん